
E A 21 環境活動レポート

対象期間（平成29年3月～平成30年2月）

発行日：平成30年7月17日

有限会社 ユー・ピー・アート

〒837-0917 福岡県大牟田市大字草木201番地
TEL :0944-52-7292 FAX :0944-51-6433/0944-53-0045
E-mail :upart@sea.ariakenet.com

0 :目次	-----	1P
1 :組織の概要		
2 :対象範囲(認証・登録範囲)・レポートの対象期間	-----	2P
3 :環境方針	-----	3P
4 :実施体制	-----	4P~5P
5 :環境活動計画	-----	6P
6 :環境目標(次年度以降の中間目標を含む)	-----	7P~9P
7 :環境目標の実績	-----	10P~13P
8 :環境活動取組結果とその評価、次年度の取り組み内容	-----	14P~17P
9 :環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-----	18P
10 :代表者による全体評価と見直しの結果	-----	19P
11 :総評	-----	20P

1:組織概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 ユー・ピー・アート (代表取締役:杉野憲一)

(2) 所在地

福岡県 大牟田市 大字草木 201番地

(3) 環境管理責任者、及び事務局担当者連絡先

環境管理責任者:丸塚悠平 ・ 事務局:吉田新

連絡先: TEL : 0944-52-7292(代表)/0944-53-0052

FAX : 0944-51-6433

E-mail : upart@sea.ariakenet.com

(4) 事業の概要

ハイテク産業関連プラスチック加工販売及び、樹脂関連看板資材販売・卸
(屋内、各種サインの製造販売)

(5) 事業の規模

・社員数: 14名

・延べ床面積: 3,500㎡ (2社合計)

・売上高:11000万円 (平成29年度売上高)

(6) 会計年度

3月～翌年2月

2:対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間

(1) 対象範囲(認証・登録範囲) (全組織・全活動が対象)

有限会社ユー・ピー・アート

(2) レポート対象期間

平成29年3月～平成30年2月

3:環境方針

環境方針

制定日: 平成20年9月1日

改訂日: 平成27年3月5日

有限会社ユー・ピー・アートは、
「ハイテク産業関連プラスチック加工販売、樹脂関連看板資材販売・卸」
「屋内、各種サインの製造販売」
以上の事業活動を通じて、地球と地域の環境の保全に貢献します。

- ①: 環境経営に積極的に取り組むために、環境経営システムを構築し、継続的な環境負荷の低減に取り組みます。
- ②: 環境への取り組みとして、次の事項に取り組みます。
 - 一、地球温暖化防止のためのCO₂排出量の削減
 - 二、省エネ活動による、電気及び石油使用量の削減
 - 三、省資源活動による、水及び紙使用量の削減
 - 四、廃棄物(一般廃棄物・産業廃棄物)の減量化及び再生活動の推進
 - 五、グリーン調達の実施 及び、
化学物質などによる環境負荷の低減と汚染の防止に努める
 - 六、生産に関する環境配慮活動の実施
 - 七、製品中の化学物質の把握と管理
 - 八、地域貢献活動の推進
- ③: 当社の事業活動に関連する環境関連法規制を遵守します。
- ④: 環境経営システムの内容を、全社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

有限会社 ユー・ピー・アート

代表取締役社長:

杉野 誠一

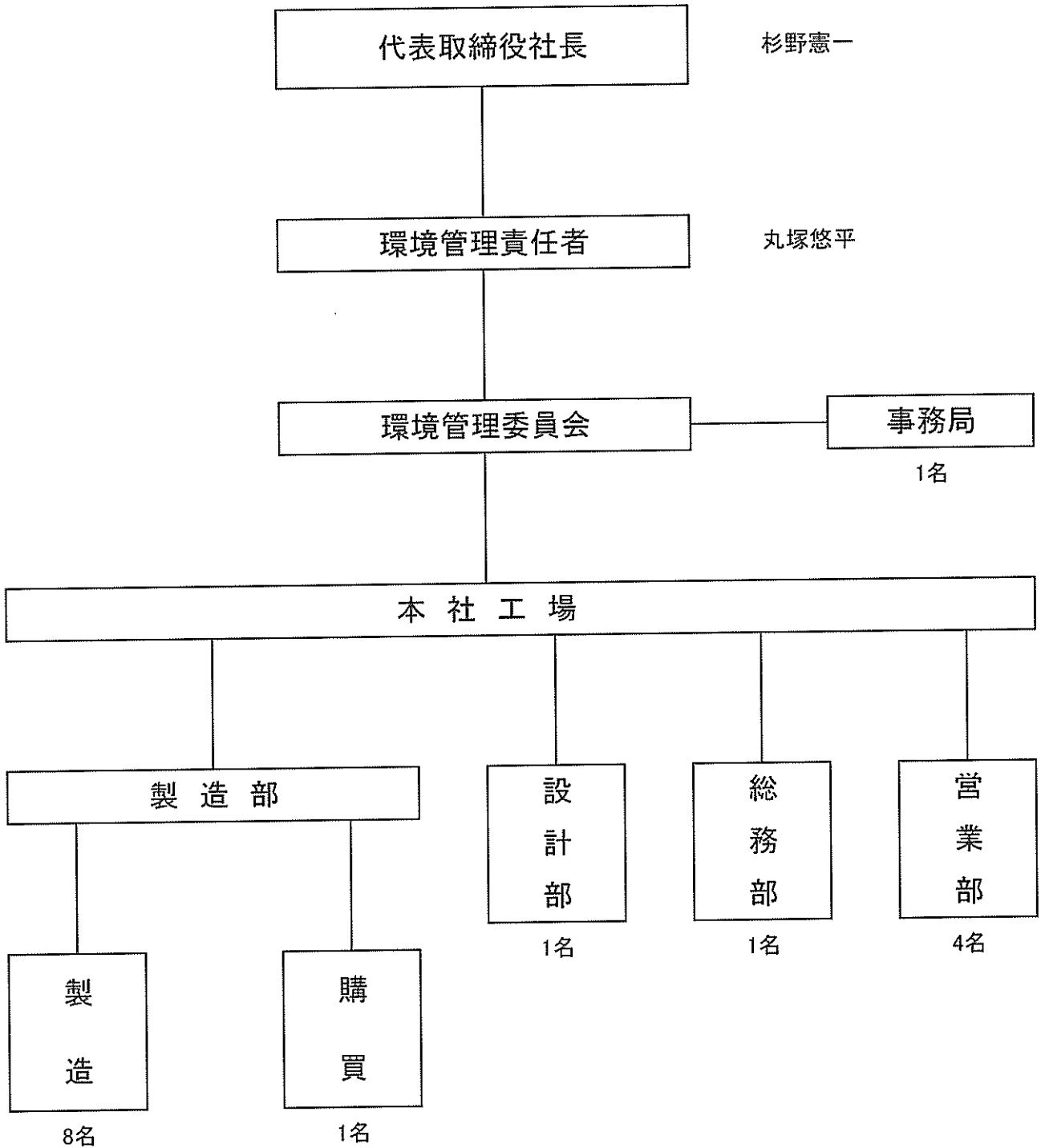
4:実施体制

- (1)社長は、当社の環境管理体制を下図のとおり定める。
- (2)各自の役割、責任及び権限を環境管理マニュアル及び手順書に定め、全社員に周知する。
- (3)社長は、環境経営システムを構築し、その状況を社長に報告する役割を果たす環境管理責任者を指名する。

有限会社 ユー・ピー・アート		
会社組織図・実施体制		
平成30年7月20日		現在
有限会社ユー・ピー・アート(代表取締役社長 杉野憲一)・所属14名		
製造部	営業部	経理・購買
8名 (内、3名はパート社員)	5名 (社長含む)	1名 ※購買担当者のみ所属
環境管理委員会:委員6名		
委員長(環境管理責任者) (製造部所属)	丸塚悠平	
事務局 (営業部所属)	吉田新	
代表取締役社長	杉野憲一	
営業部・部長	野林廣志	
営業部・課長	松尾久光	
製造部・課長	下藺輝道	
※上記委員は、環境活動における全従業員の指導・監督の役割を担う。 委員会にて、活動の報告・環境活動の方向性の決定を行う。 (委員会は月に1度行う。)		

実施体制

作成日	改訂日	承認者	作成者
H20年9月25日	H28年6月17日	杉野	丸塚



5: 環境活動計画

取組目標		実施項目	実施目的/内容	実施期間	責任者	担当者	
1	購入電力量の削減	・始業点検の実施(工作設備等) ・電力消費抑制(工作設備等) ・不具合確認(漏電/利用料変動)	・定期指導/教育 ・電源管理・稼働状況把握/管理 定期点検/メンテナンス	・通年	下園	梅崎	
		照明の無駄削減/消灯確認(実施/指導)					
		・エアコン設定(夏季:27℃/冬季:20℃)(実施/確認/指導)		・夏季/冬季 (使用期間中)			
		・エアコン定期清掃(フィルター回り)(実施/確認/指導)		・夏季/冬季 (使用期間中) (月1回)			
2	燃料 使用量 削減	1. ガソリン	・エコドライブ実施	・運転意識向上推進 ・使用状況の把握(車両管理者)	・通年	松尾	松尾
		2. 軽油		・定期指導/教育			
		3. 灯油	・ストーブ使用時間/設定見直し	・使用状況の把握 ・定期点検 ・無駄な使用の削減	・冬季 (使用期間中)		
3	水使用量削減	・節水表示による意識付け	・ラベル表示(蛇口廻り) ・定期確認/見直し(不備/内容)	・通年	吉田	原田	
		・水漏れ確認実施(水廻り) ・不具合確認実施(水廻り/使用量変動)		・通年 (月1回)			
4	コピー用紙 使用量削減	・用紙節約表示による意識付け	・ラベル表示(コピー機廻り) ・定期確認/見直し(不備/内容)	・通年	丸塚	原田	
		再利用(裏紙等)/電子化推進	・裏紙等の整理整頓 ・コピー機廻りの改善/整理 ・PC利用への切替 ・(FAX→メール等)				
5	廃棄物削減 (一般廃棄物 ・産業廃棄物)	・分別の徹底 ・リユース/リサイクル推進 ・廃棄物の発生抑制	・分別方法の定期見直し ・再利用の為の分別推進 ・削減目標の意識付け ・定期指導/教育 ・発生量/原因の調査	・通年	下園	荒巻	
6	グリーン調達 ・購入の実施	・グリーン調達・購入対応品への切り替え促進 ・調達方法/物品の定期見直し ・原材料/購入品の化学物質の把握・管理		・通年	野林	岡	
7	地域貢献活動	・会社周辺の定期的な清掃活動 ・地域リサイクル活動/貢献活動への積極的参加の促進		・通年 (不定期)	杉野	梅崎	
8	製品中の 化学物質の 把握と管理	・使用製品/原材料における化学物質の管理/把握 (購入先問い合わせ/資料管理) ・顧客より問い合わせの際の情報開示(上記情報)		・通年	野林	吉田	
9	製品に関する 環境配慮活動の 実施	・生産効率の改善/上昇	・改善ミーティング実施 (安全教育兼)	・通年 (週1回)	下園	梅崎	
		・不良品の削減 ・在庫の整理/状況把握(原材料等)	・生産時間短縮による削減 (電力/廃棄物他)	・通年			
<p>備考:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任者は担当者が役割を果たしているかどうか監督する役割とする。 ・担当者は直接確認を行う場合と、皆を指導する役割を持つ。 ・化学物質については極少数の為数値は把握せずに使用上の適正管理を行う。(今後大きく使用量が増加する場合は再調査する。) 							

6:環境目標 (次年度以降の中期目標を含む)

項目	単位	目標基準値 ※1	3ヶ年計画		
			本年度目標値	来年度目標値	再来年度目標値
			平成29年度 (3月～翌年2月)	平成30年度 (3月～翌年2月)	平成31年度 (3月～翌年2月)
			基準値よりの削減目標値		
1 購入電力量削減	Kwh	86983	86766	86548	86331
CO2排出量削減	kg-CO2	44274	44164	44053	43942
2-1 燃料使用量削減 ーガソリン	L	2066	2061	2056	2051
CO2排出量削減	kg-CO2	4797	4785	4773	4761
2-2 燃料使用量削減 ー軽油	L	5975	5960	5945	5930
CO2排出量削減	kg-CO2	15649	15609	15570	15531
2-3 燃料使用量削減 ー灯油	L	1079	1076	1074	1071
CO2排出量削減	kg-CO2	2686	2679	2672	2665
CO2排出量削減(合計)	kg-CO2	23131	23074	23016	22958
3水使用量削減	m ³	29	28	27	26
4コピー用紙使用量削減	kg	164.210	163.799	163.389	162.978
5 廃棄物削減 (一般・産業廃棄物)	ton	6.173	6.158	6.142	6.127
6グリーン調達・購入の実施			<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン調達・購入対応品への切り替え促進 ・調達方法/物品の定期見直し ・原材料/購入品の化学物質の把握・管理 		
7地域貢献活動の実施			<ul style="list-style-type: none"> ・会社周辺の定期的な清掃活動 ・地域リサイクル活動/貢献活動への積極的参加の促進 		
8製品中の化学物質の把握と管理			<ul style="list-style-type: none"> ・使用製品/原材料における化学物質の管理/把握 (購入先問い合わせ/資料管理) ・顧客より問い合わせの際の情報開示(上記情報) 		
9 製品に関する 環境配慮活動の実施			<ul style="list-style-type: none"> ・生産効率の改善/上昇 ・不良品の削減 ・在庫の整理/状況把握(原材料等) 		
備考:					
<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度からH31年度の目標基準値を上記の表の参照とする。 ・各目標値の算出方法は、H26年度からH28年度の実績値の平均値とする。但し、ガソリン・軽油については過去3年の実績値の最大値を基準値とする。 ・購入電力のCO2排出量の算出には、H27年度の九州電力の実排出係数(0.509kg-CO2/kwh)を用いる。(目標設定時点での最新の数値を使用する。) ・ガソリンのCO2排出量の算出には、経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.322kg-CO2/l)を用いる。 ・軽油のCO2排出量の算出には、経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.619kg-CO2/l)を用いる。 ・灯油のCO2排出量の算出には、経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.489kg-CO2/l)を用いる。 ・購入電力・燃料使用量の数値については、小数点以下は、四捨五入する。 ・水使用量については、1m³単位とし(測定単位が1m³単位の為)、年度ごとに1m³の削減目標とする。 ・コピー用紙使用量については、小数点第3位まで記載し、それ以下は四捨五入する。 ・廃棄物削減については、小数点第3位まで記載し、それ以下は四捨五入する。 					

平成29～31年度・目標基準値算出表

項目		平成26～28年度・実績値			平成29～31年度 目標基準値 (前3ヶ年度実績 の平均)	
		平成26年度 (3月～翌年2月)	平成27年度 (3月～翌年2月)	平成28年度 (3月～翌年2月)		
1	購入電力量削減	Kwh	83002	87485	90462	86983
	CO2排出量	kg-CO2	42248	44530	46045	44274
2	燃料使用量削減 ーガソリン	L	1885	2066	1598	2066
	CO2排出量	kg-CO2	4378	4797	3711	4797
	燃料使用量削減 ー軽油	L	5975	5559	3929	5975
	CO2排出量	kg-CO2	15649	14559	10290	15649
	燃料使用量削減 ー灯油	L	800	896	1541	1079
	CO2排出量	kg-CO2	1991	2230	3836	2686
3	水使用量削減	m ³	25	30	32	29
4	コピー用紙使用量削減	kg	156.510	160.270	175.840	164.207
5	廃棄物削減 (一般・産業廃棄物)	Ton	8.860	6.770	2.890	6.173
項目		基準値(上記より)	×	(単位当たり) 排出量	=	各排出量基準値
購入電力量		86983	×	0.509	=	44274
ガソリン使用量		2066	×	2.322	=	4797
軽油使用量		5975	×	2.619	=	15649
灯油使用量		1079	×	2.489	=	2686
CO2排出量・基準値(各排出量・合計値) (単位:kgCO2)					=	67406
備考:						
<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度からH31年度の目標基準値を上記の表の参照とする。 ・各目標値の算出方法は、H26年度からH28年度の実績値の平均値とする。但し、ガソリン・軽油については過去3年の実績値の最大値を基準値とする。 ・購入電力のCO2排出量の算出には、H27年度の九州電力の実排出係数(0.509kg-CO2/kwh)を用いる。(目標設定時点での最新の数値を使用する。) ・ガソリンのCO2排出量の算出には、経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.322kg-CO2/l)を用いる。 ・軽油のCO2排出量の算出には、経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.619kg-CO2/l)を用いる。 ・灯油のCO2排出量の算出には、経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.489kg-CO2/l)を用いる。 ・購入電力・燃料使用量の数値については、小数点以下は、四捨五入する。 ・水使用量については、1m³単位とし(測定単位が1m³単位の為)、年度ごとに1m³の削減目標とする。 ・コピー用紙使用量については、小数点第3位まで記載し、それ以下は四捨五入する。 ・廃棄物削減については、小数点第3位まで記載し、それ以下は四捨五入する。 						

次年度3ヶ年目標基準値

作成日	作成者
平成29年5月8日	丸塚

項目	単位	H26年度 実績値	H27年度 実績値	H28年度 実績値	H29～H31年度 目標基準値	
1	購入電力	kwh	83002	87485	90462	86983
	CO2排出量	kg-Co2	42248	44530	46045	44274
2	ガソリン使用量	L	1885	2066	1598	2066
	CO2排出量	kg-Co2	4378	4797	3711	4797
	軽油使用量	L	5975	5559	3929	5975
	CO2排出量	kg-Co2	15648	14560	10290	15649
	灯油使用量	L	800	896	1541	1079
	CO2排出量	kg-Co2	1991	2230	3836	2686
	CO2排出量(合計)	kg-Co2	22017	21587	17836	23131
3	水使用量	m ³	25	30	32	29
4	コピー用紙使用量	kg	156.510	160.270	175.840	164.207
5	廃棄物削減	t	8.860	6.770	2.890	6.173

備考

- ・H29年度からH31年度の目標基準値を上記の表の参照とする。
- ・各目標値の算出方法は、H26年度からH28年度の実績値の平均値とする。但し、ガソリン・軽油については過去3年の実績値の最大値を基準値とする。
- ・購入電力のCO2排出量の算出には、
- ・H27年度の九州電力の実排出係数(0.509kg-CO2/kwh)を用いる。(目標設定時点での最新の数値を使用する。)
- ・ガソリンのCO2排出量の算出には、
経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.322kg-CO2/l)を用いる。
- ・軽油のCO2排出量の算出には、
経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.619kg-CO2/l)を用いる。
- ・灯油のCO2排出量の算出には、
経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.489kg-CO2/l)を用いる。
- ・購入電力・燃料使用量の数値については、小数点以下は、四捨五入する。
- ・水使用量については、1m³単位とする。(測定単位が1m³単位の為)
- ・コピー用紙使用量については、小数点第3位まで記載し、それ以下は四捨五入する。
- ・廃棄物削減については、小数点第3位まで記載し、それ以下は四捨五入する。

7：環境目標の実績

- ・当社における環境負荷低減活動として
 - ・CO₂排出量の削減
 - ・エネルギー消費量（購入電力及びガソリン・軽油・灯油の使用量）の削減
 - ・水使用量の削減
 - ・コピー用紙使用量の削減
 - ・産業廃棄物の削減（分別によるリサイクルを進める・廃棄物の発生抑制）における数値目標の達成に取り組みました。

・平成26～28年度の前3ヶ年度の実績値の平均値を削減基準とし、3ヶ年目標（平成29年から31年まで）の目標を立てました。（ガソリン・軽油・灯油については過去3年の最大値を実績値とした。）

年度ごと変動が大きいため、また長期的な比較を行えるようにする為前3ヶ年度の平均値としました。

平成29年度の環境目標は基準比より0.25%の削減とします。
また3ヶ年目標として、次年度:0.5%・次々年度:0.75%の削減目標とします。

4～5年前より営業活動の範囲が大きく変わり
車両の変更などで軽油使用量など目標達成不可な項目が増え、
ほかの項目も下げ止まりの傾向がみられるため、削減数値の見直しを行いました。

水使用量については、検針が1m³単位の為、1年ごとに1m³の削減目標とします。
この為、目標値と実績値が同じ場合、目標達成とします。

- ・上記以外の数値で表せない活動目標についても積極的に取り組みました。

平成29年3月～平成30年2月までを取組結果として
数値目標の結果を以下のようにまとめました。

項目	単位	目標基準値 ※1	本年度目標値 (3月～翌年2月) 基準値よりの 削減目標値 0.75%	本年度実績値		
				(3月～翌年2月)	達成可否	
1 購入電力量削減	kwh	86983	86766	74599	○	
	CO2排出量削減	kg-Co2	44274	44164	37971	○
2 燃料使用量削減	—ガソリン	L	2066	2061	2808	×
	CO2排出量削減	kg-Co2	4797	4785	6520	×
	—軽油	L	5975	5960	5599	○
	CO2排出量削減	kg-Co2	15649	15609	14664	○
	—灯油	L	1079	1076	1572	×
	CO2排出量削減	kg-Co2	2686	2679	3913	×
CO2排出量削減(合計) (電力・燃料)		kg-Co2	67406	67237	63068	○
3 水使用量削減	※1	m ³	29	28	24	○
4 コピー用紙使用量削減	※2	kg	164.200	163.790	150.880	○
5 廃棄物削減 (一般・産業廃棄物)	※2	Ton	6.170	6.155	5.872	○

備考:

- ・数値については、電力・燃料は(実績値の合計を含め)小数点以下の数値は切り上げとする。
- ・基準値は、計画の前3ヶ年度の実績を基に前3ヶ年度の平均値とする。
- ・上記に伴い、CO2排出量基準値については購入電力量・燃料使用量の基準値より、目標値を算出することとした。(数値詳細は数値目標算出表に記載)
- ・なお、CO2排出量の購入電力の排出計数には平成27年度の九州電力の実排出計数:0.509(kg-CO2/kwh)を使用。(目標作成時点で最新の数値を用いる)
- ・ガソリンのCO2排出量の算出には、
経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.322kg-CO2/l)を用いる。
- ・軽油のCO2排出量の算出には、
経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.619kg-CO2/l)を用いる。
- ・灯油のCO2排出量の算出には、
経済産業省・環境省の単位当たりの二酸化炭素排出量(2.489kg-CO2/l)を用いる。
- ※1水使用量については検針が1m³単位の為、基準値から年度ごとに1m³ずつの累積削減目標とした。そのため、
目標値と同数値で目標達成とする。(1m³単位でしか判別できない為)
- ※2コピー用紙使用量は「g」単位で、また産業廃棄物は「kg」単位で確認できる様、
小数点第3位までの数値(それ以下は切り上げ)とする。

数値目標以外の環境目標については以下のように取り組みました。

6 グリーン調達・購入の実施

- ・ グリーン調達・購入対応品への切り替え促進
⇒ 備品等、グリーン調達対応品への切り替え対応
見直せるもの(切り替え可能のもの)については定期的に見直した。
- ・ 調達方法/物品の定期見直し
⇒ 購入品における原材料をメーカーへ問い合わせ、SDS取り寄せ・管理保管した。
(購入履歴のない原材料について)
- ・ 原材料/購入品の化学物質の把握・管理
⇒ 原材料に含まれる化学物質の管理を行った結果、
含有量的にはPRTR制度の届出対象外であることが分かった。

7 地域貢献活動の実施

- ・ 会社周辺の定期的な清掃活動
⇒ 会社前の草刈り・ゴミ拾いを定期的に行った。
会社周辺・駐車場に関しては定期的に除草剤を撒くことにした。

8 製品中の化学物質の把握と管理

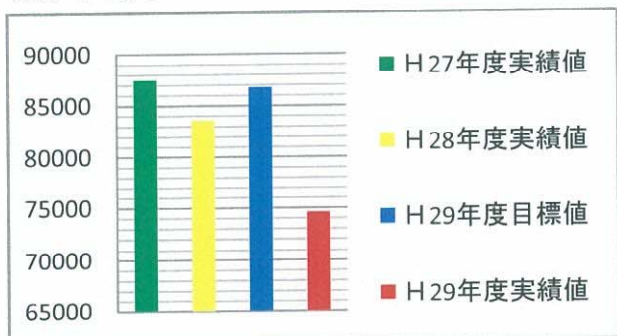
- ・ 使用製品/原材料における化学物質の把握と管理 (購入先問合せ/資料管理)
⇒ 購入品における原材料をメーカーへ問い合わせ、SDS取り寄せ・管理保管した。
- ・ 顧客より問い合わせの際の情報開示(上記情報)
⇒ 顧客より上記情報の問い合わせ・送付依頼があった際に迅速に対応(情報開示)する。

9 製品に関する環境配慮活動の実施

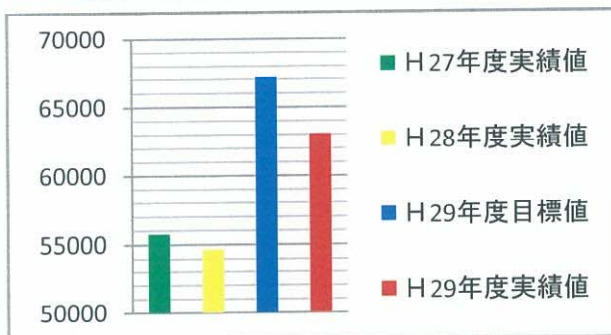
- ・ 生産効率の改善/上昇
⇒ 生産効率の改善/上昇・不良品の削減のために製造部では毎週1回安全教育を行っている。
(生産用新治具の考案作成・設備仕様上の注意点等)
- ・ 不良品の削減 ・ 在庫の整理/状況把握(原材料等)
⇒ 在庫の状況を管理しやすくする為、ミスをなくすために始業前・終業後清掃、
定期的な工場内・倉庫整理(端材整理)・設備メンテナンスを行っている。

前年度比との比較の為、グラフをまとめました。

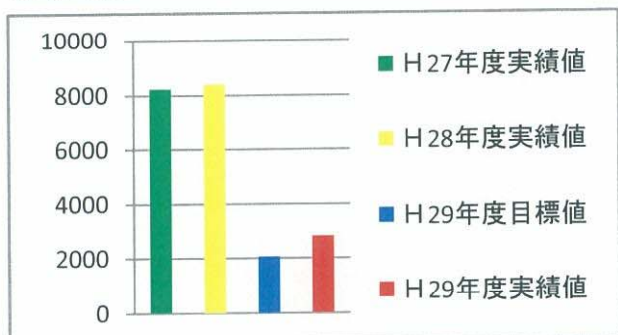
購入電力



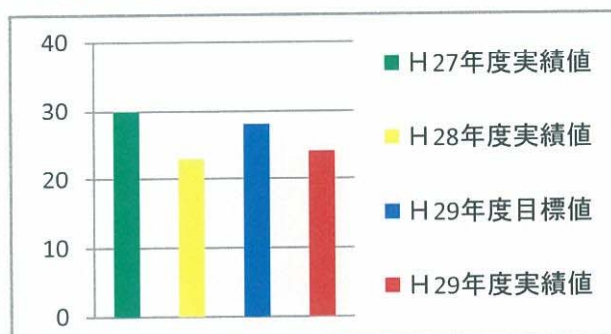
CO2排出量合計



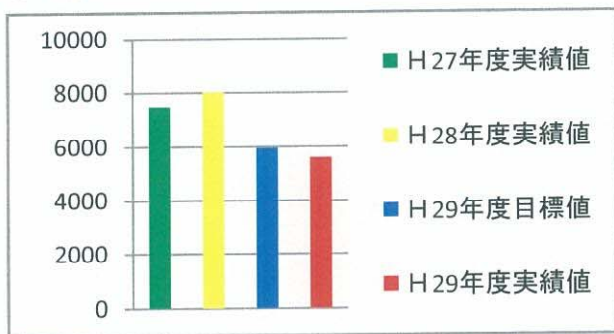
ガソリン



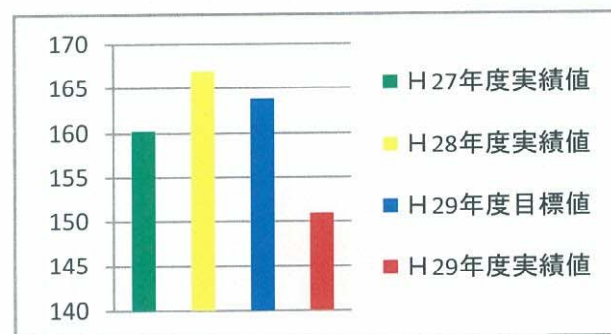
水使用量



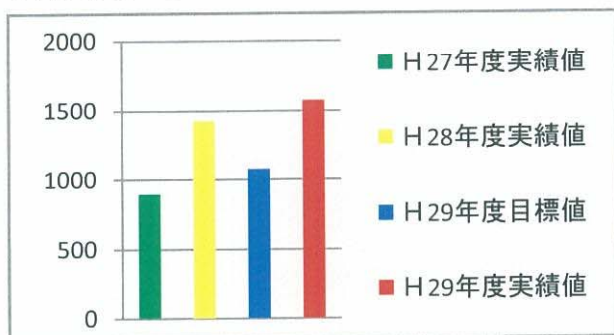
軽油



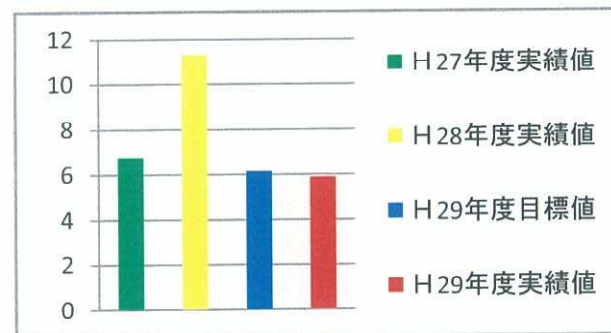
コピー用紙使用量



灯油使用量



廃棄物削減



8. 環境活動取組結果とその評価、次年度の取組み内容

<1: 購入電力量削減>

環境目標値: 86766kwhに対して取組結果74599kwhと約15%の削減となり目標達成となった。
引き続き節電の周知に努める。

取組み内容

各電源スイッチのところに<節電シール>を貼り節電を呼び掛けた。



<2: 燃料使用量削減>

ガソリンについては目標値2061ℓに対して、実績値2808ℓと約40%の増加となり目標不可となった。
軽油については目標値5960ℓに対して、実績値5599ℓと約4%の削減となり目標達成となった。
灯油については目標値1076ℓに対して、実績値1572ℓと約50%の増加となり目標不可となった。
目標値を大幅に超過したものが有り、目標値に無理がないか検討しつつ引き続き削減を周知する。

取組み内容

その他、ガソリン・軽油については<運行記録票>に記入を呼び掛け、エコ運転を心掛けた。

<3:水使用量削減>

環境目標28㎡に対して、取組結果24㎡と約15%の削減となり目標達成となった。
引き続き節水を心がけていく。

取り組み内容

水漏れテストの実施

各蛇口に<節水シール>を貼り、節水を呼びかけた。



<4:コピー紙使用量削減>

環境目標163.799kgに対して、取組結果150.880kgと約8%の削減となり目標達成となった。
裏紙の再利用など、紙の節約に今後も努める。

取り組み内容

各コピー機に<紙節約シール>を貼り、紙の節約に努めた。

紙の両面使用(裏紙使用)を呼び掛けた。



<5: 廃棄物(一般廃棄物・産業廃棄物)削減>

環境目標6.155tに対して、取組結果5.872tと約3%の削減となり目標達成となった。
引き続き廃棄物削減を心掛ける。

取り組み内容

- ・樹脂廃棄物の分別の取り組みとして各場所に表示板を設置、分別に取り組みました。
- ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書(平成29年度)分については、自治体担当部署へ平成30年度6月1日に提出しました。



<6: グリーン調達・購入実施の実施>

- ・グリーン調達基準に基づき、部品及び原材料の調達品に含有される環境関連物質の管理を実施した。
- ・備品等、切り替え可能なものに関しては、グリーン調達対応品への切り替えを購入担当者へ呼びかけをした。

<7: 地域貢献活動の実施>

- ・会社前の草刈、ゴミ拾いを定期的に行った。
- ・会社周辺、駐車場に関しては除草剤を定期的に撒くことにした。



<8:製品中の化学物質の把握と管理>

- ・購入品の新規の物に関しては昨年度に引き続き、SDS又は類似書式の物を取得する。
- ・次年度も継続して、含有化学物質の管理の実施、化学物質使用量の把握及び環境関連法規等を遵守できるように活動を行う。

<9:製品に関する環境配慮活動の実施>

・週1回の定期ミーティングの実施

ミーティング内容・・・ 安全教育(設備の使用方法・注意点の再確認・教育・指導)
生産効率改善の為に意見・気づいた点の報告
(改善結果の報告・生産用新治具の提案・製作報告等)

- ・不良品の削減や適正な在庫管理の為に以下の事を実施した。
 - ・始業前・始業後の清掃や作業前・作業後の後片付け、設備の稼働前点検
 - ・工場内・倉庫の原材料・端材等の定期的な整理整頓
 - ・設備の定期的な整備(メンテナンス)
- 今後も積極的に実施していく。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

・環境関連法規の遵守及び違反の有無

環境関連法規の遵守状況チェック結果に基づき代表者による見直しの中で、違反等は無かった。

・指摘・訴訟の有無

環境法規制の遵守活動を通じて、平成29年度において関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間無かった。
また、周辺住民からの苦情もなく、訴訟についても無かった。

10: 代表者による全体評価と見直しの結果

1、環境経営システムの有効性評価

…平成29年度は、計画、実施、評価、見直しを含め社員の理解も進み、環境経営システムは機能していると考えられる。

2、環境への取り組み状況の評価

・環境目標の達成状況

…本年度より新しく3ヶ年目標を制定した。

燃料削減目標の内、ガソリン・灯油が超過しているが、他の項目と見比べて数値の差異が激しすぎる為、目標値に無理がないかの検討も視野に入れ目標値の再検討も考慮する。

その他の目標に関しては目標値を守れている為、引き続き削減に努める。

・環境活動計画の実施及び運用結果

…各部門の環境活動計画に従い適切に処理されていることを

環境管理責任者が随時確認し、必要に応じて報告を取りまとめることで管理をおこなっている。

・環境関連法規等の遵守状況

…6月と12月に環境管理責任者が入手した制度改正情報を元に改訂の確認を行った上で判定を行ったものが環境関連法規等の遵守状況のチェック結果として

取り纏められている。

…項目結果に関して遵守しており違反は無い。

・各部からの環境に関する苦情や要望

…苦情は無かった。要望に関しては昨年あった安全データシート等の要望は無かったが、いつでも要望に応えられるよう、引き続き資料を整備していく。

順調であると評価する。

次年度以降の取り組み・改善

必要あり

必要なし

備考:

・環境への取り組み状況の評価(環境目標の達成状況)の項目に記載している、目標値の再検討については、本年度は新しく目標値を設定した初年度でもある為、しばらく様子を見て判断する。

・次年度より、廃棄物削減の一環として一部の樹脂(アクリル・ポリカ)については、有価買取をしてもらう予定。

11: 総 評

環境に大きな影響を及ぼしている活動、施設、設備などについて検討した結果、営業活動および製造製作において二酸化炭素排出量のほとんどを占めていることが特定出来た。営業活動では営業車の化石燃料の使用によるもの。製造製作では電力使用量によるものが大半となる。

環境方針・環境活動計画・その他の環境経営システムの要素についての変更はありません。

環境効率指数: 売上高(100万円)÷二酸化炭素排出量(ton)の推移は、
平成27年度:1.34・平成28年度:1.64・本年度:1.82
となり、平成28年度と比べ少し向上した。